



え・小島サエキチ

# 年の瀬に 物の後始末を

**早** いもので師走も半ばです。職場や家庭で、年末の大掃除を計画している人も多いことでしょう。今年一年お世話になった「場」の清掃とともに、「物」の後始末も、年末を機に取り組みたいものです。

情報社会とはいえ、会議資料やノート、領収書など、紙を使う場面は多いでしょう。廉価な文房具が出回る一方で、机の中に使いかけてのボールペンが何本も転がっている人も多いはず。また、勤務中に着るユニホームや仕事道具など、職場の周りには、様々な物があふれています。

そうした物の手入れを普段どれくらい行なっているでしょうか。また、使い古したり、使えなくなった時の後始末は、どのようにしているのでしょうか？

ある職場の同じ部署で働くC君とA子さん。仕事で使う資料や物の扱い方が対照的です。

C君の机の上には、いつも紙の資料が山積みです。どこに何があるのかわかりません。突然提出す

るように指示された資料も、取り出すまでに時間がかかります。

引き出しの中は、いつ買ったのかわからない菓子で溢れています。机の中に散乱する文房具は、なぜかすぐに使えなくなることが多く、すぐにゴミ箱行きです。

仕事の能力は高いC君ですが、効率の悪いことと、仕事が雑なところから、今ひとつ周囲からの信頼を得られません。

一方、Aさんは、後始末の実践に取り組んでいます。

一日の仕事が終わった後には、その日使った資料を整理します。パソコンや文房具はホコリや汚れをふき取って、所定の場所に戻します。心の中で「今日も一日無事に仕事ができました。ありがとうございます」と思いながら、片づけをするようにしています。

また、家庭でも、使い古した物は、汚れを拭き取ってから捨てるようにしたり、着古した服も、一度洗濯をした後にリサイクルに出したり、端切れにしたり、処分したりしています。

Aさんの仕事量は以前とは変わらないものの、後始末を実践することで、効率よく、短時間で仕事を終えられるようになっていきました。「物が私のことを助けてくれるのかしら」と不思議に思いますが、嬉しいA子さんです。

純粹倫理では、人と人の間に倫理があるように、人と物の間にも倫理があると考えます。純粹倫理学習の基本テキストである『万人幸福の栞』第十一条では、物の倫理を次のように説いています。

着物も、道具も、機械も、金銭も皆生きています。大切につかえば、その持ち主のために喜んで働き、粗末にあつかえば、すねて持主に反抗するだけでなく、時には腹立って食ってかかる。

後始末をきちんと行なうことは、まさに物を大切にし、感謝する実践にほかなりません。

会社の備品、自身で購入した物との区別なく、その物によって一年間無事に仕事ができただけに感謝し、しっかりと後始末をして、今年を締めくくりましょう。